



ふるさと美郷への思いをはせる 中部関西地区美郷町ふるさと会

2月19日に名古屋市内の会場で中部関西地区美郷町ふるさと会の総会と懇親会が開かれました。美郷町からは松田町長、高橋議長らが来賓として出席し、会員の方々と交流を深めました。

懇親会は賑やかに和やかな雰囲気の中行われ、杯を交わしながら思い出話を花を咲かせ、再会を喜び合う会員の姿が見られました。また、会の最後には全員で美郷町民歌を合唱し、ふるさと美郷への思いをはせました。

まちづくりの事例を学びました 協働参画のまちづくり研修会

3月4日に美郷町ふれあいセンターで「協働参画のまちづくり研修会」が開かれ、地域住民や町内企業で働く人など約80名が参加しました。研修会では、IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）代表の川北秀人さんが「自治を回復し、まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するために」と題して講演し、全国各地で行われている地域住民によるまちづくりの事例を紹介しました。参加者からは「考えから行動に移すことの大切さを知ることができた」「自分もまちづくりのために小さなことから始めていきたい」という声が聞かれました。



講師の川北秀人さん▶

六郷小学校音楽部 マーチング&パトンステージ 全国大会で講評者特別賞を受賞

3月7日に六郷小学校音楽部の代表者4名が役場庁舎を訪れ、2月18日に横浜市で行われた第11回マーチング&パトンステージ全国大会の結果を松田町長に報告しました。六郷小学校音楽部は、東日本大震災の被災者を励まそうと大仙・仙北市内の5小学校と同校で結成した合同バンド「ピリブプロジェクト」の一員として全国大会に出場。同校音楽部がマーチングに挑戦するのは初めてのことでしたが、総勢103名の息の合った演奏・演技で観衆を魅了し、講評者特別賞を受賞しました。



▲前列左から：鈴木郁弥さん、藤岡志帆さん、岡田啓吾さん、山内凜子さん、後列左から：顧問の渡邊圭子教諭、保護者会長の岡田和浩さん、松田町長

ありがとうございました 六郷金融懇談会 除雪ボランティア

秋田銀行、北都銀行、羽後信用金庫の3行で組織する六郷金融懇談会（高橋伸一会長）が、3月10日に学友館玄関付近の除雪ボランティアを行いました。雪解けが進まない中、利用者の多い施設周辺を除雪し、安全を確保しようといわれたもので、参加者18名はスコップで雪の塊を砕きながら排雪作業を進めていました。六郷金融懇談会の皆さん、ありがとうございました。



▲子どもたちが作った天筆は来年の「六郷のカマクラ」で、天筆焼きをします。

美郷町の自然と文化に触れました 友好都市・東京都大田区の小学生が来町

3月17日に東京都大田区の青少年対策六郷地区委員会ジュニア部の皆さんが美郷町を訪れ、同部の小学生11名が雪遊びや天筆づくりなどを通して町の自然と文化に触れました。また、この日は大田区六郷地区の町会代表者らで組織する六郷美郷交流会と美郷町との「防災についての意見交換会」が役場庁舎で行われ、松田町長をはじめとする町関係者らと同会の皆さんが東日本大震災以降にそれぞれの地域で取り組んでいる防災対策について情報交換を行いました。

たくさんの思い出を胸に
町内小学校
幼稚園・保育園
卒業・卒園式

3月16日に町内各小学校で卒業式が行われ、合わせて189名の卒業生が思い出のたくさん詰まった学び舎を巣立ちました。また、17日には町内各幼稚園・保育園で卒園式が行われ、合わせて160名の卒園生に園長先生から修了証書が手渡されました。



■美郷中学校の制服に身を包み(千屋小学校)



■修了証書を手「ありがとう」(仙南幼稚園・保育園)

東日本大震災発災からちょうど1年の先月11日、町では鎮魂のための黙祷のサイレンを流しました。テレビでは各局とも特番が放映されていましたが、その中に宮城県気仙沼市大島在住のある少年と米国海兵隊との交流を取り上げた番組がありました。みなさんはご覧になったでしょうか。自宅を流され、精神的に不安定になった少年。それを何



▲第2回町議会定例会で施政方針を述べる松田町長



「明日に架ける橋」

美郷町長 松田 知己

とかしたい両親は少年にミッシオンを与えます。満潮時に冠水する道路をみんなが不便なく渡れるよう、土盛りの橋を作る。その作業に黙々と勤しむ少年を目にした海兵隊員。作業を手伝い、両者で立派な土盛りの橋を完成させます。両親はその橋を「明日に架ける橋」と命名したという話です。

「明日に架ける橋」。一定年代の方はほぼご存じと思います。サイモン&ガーファンの不朽の名曲です。曲名の直訳は「荒れ狂う川に架ける橋」。困難を乗り越えるために架ける橋という意味合いから、「明日に架ける橋」との訳になったのだらうと思います。推移を踏まえた上で、少年の両親の気持ちを付度すると、いろいろな想いを込めたであろう命名に胸が熱くなります。

私たちは今、多くの困難に囲まれています。復興はもちろん、少子高齢化への対応や財政問題への対応など。どれ一つとっても簡単な困難ではありません。だからこそ私たちは困難の現実を直視し、乗り越えられる橋を架けなければなりません。しかしその橋は、今しか考えない、自分のことしか考えない、一面しか考えないという思慮では設計すらできません。可能な限り未来も考える、周りのことも考える、多面も考える深い思慮が必要です。その上での対応こそが明日に架ける橋になり得る、と私は信じています。

この4月、いよいよ美郷中学校が開校です。また町内3温泉は同一経営体により再出発です。そして震災ガレキは、町も構成自治体である大仙美郷環境事業組合が処理の具体化に向かいます。困難を直視し、思慮し尽くしての対応です。すべてが「明日に架ける橋」のもりです。ご協力をお願いします。